



夏も冬も
一長一短ですが

● 武田 幸喜

国労東日本本部 書記長



残暑が続き大変厳しく暑かった今年。秋があつという間に過ぎ、突然寒くなる。近年ではこれが当たり前前となっている事に、違和感を感じざるを得ないのは私だけではないでしょう。

エルダー出向となり1年9ヶ月。1日2万歩歩くのが当たり前になり、なおさら暑さに辟易していた今年の夏から残暑でした。



調べてみると、「日本の夏の平均気温は、過去100年間で約1.4℃上昇しています。特に、2023年、2024年、2025年と3年連続で史上最も暑い夏を記録しており、2025年は過去の最高記録を大きく更新しました」ということです。

特に今年は「6月～8月の平均気温が、平年値を2.36℃上回り、1898年の統計開始以来、最も高い値を記録しました。2023年、2024年もそれに次ぐ記録となり、3年連続で過去最高となり、全国

的に猛暑日や最高気温40℃以上の観測日が増加しました」ということでした。



すでに懐かしくもある猛暑ですが、今年、現場で働く社員にファン付きベストが配布されました。駅で清掃をしている時に乗務員や駅の社員が着用しているのを見ると、「あのベストの膨らみ。涼しそうで良いなあ～」と羨ましさを感じ、「うちでも欲しいなあ～」の声と、うちはでは無理だなの声も。

色々な声があり、夏が終わりという時に配布されたことには、少しだけ感動（3ヶ月遅いけど）。

これからは、寒さに耐えながらの仕事になります。それでも夏の回収物の不快な香りが少し和らぐということもあり、悪いことばかりでなく、夏も冬も一長一短。

どの季節でも無理なく働ける、そんな状況を作り、冬を乗り切ろう！良い新年を迎えよう！と考える師走の始まりでした。